

2025 JUA/EAU Academic Exchange Programme 参加報告

佐 塚 智 和 (千葉大)

このたびは2025 JUA/EAU Academic Exchange Programmeにご採択をいただき誠にありがとうございました。海外での留学経験がない私にとって非常に貴重で大変刺激的な機会をいただきました。神戸大学の植木秀登先生と台湾からの同じプログラムでいらしている3人の先生と計5人で本プログラムに参加しました。

はじめに本プログラムは非常にタフでした。朝7時過ぎにはじまり、夜は12時前までディナーにお誘いいただき解散になります。睡眠時間は長くて5時間程度で、日本での仕事をしようかとも思っていましたけれどもできませんでした。ある程度体力に自信はありましたが週末も含め連日ですのでさすがに心身ともにこたえます。

飛行機で到着後にローマのGemelli大学病院(Rocco吻合で有名なProf. Roccoの教室)を見学しました。2ショット写真は宝物です。(写真1)早速教室の先生が執刀するRARPを見学させていただきました。もちろんRocco吻合をされておりました。翌日以降は普段私が最も執刀する機会の多いRAPNやRARCを見学しました。高難度の手術をレジデントの先生を助手にして、流れるように美しい手術をされていました。執刀医はおそらく私と同世代の先生であり、術後にいろいろとお話をさせていただきました。高難度の手術を完璧に終えた直後にもかかわらず、謙虚で紳士的に彼の手術の信念を教えてくださいました。

週末にはプログラムに参加している5人でローマ観光

に行きました。サンタンジェロ城を観光後、サンピエトロ大聖堂(バチカン市国)まで歩き、メトロに乗りローマの休日でおなじみのスペイン広場まで行きました。植木先生とそこで飲んだスピリッツも格別でした。そして夢であったヨーロッパサッカーを観戦することができました。

4日間のローマ滞在後にマドリッドに移動しました。マドリッドではProf. Burgosが主催するRamon y Cajal大学病院泌尿器科を見学させていただきました。まず初日にVersius platformで行うRARPを見学することができました。Versius platformは普段私が使用しているDa Vinci Xiと比較するとややアームが弱く少し使い勝手が悪い印象はありましたが、そこは技術でカバーされました。また幸運にもロボット支援腎移植術のRamon y Cajal大学病院1例目を見学することができました。当日はバルセロナからエキスパートの先生を招聘し安全に終了し、終了後手術室内で拍手をして喜んだことが印象的でした。(写真2)

Prof. Brugosは人格者でありかつ医学にとどまらずさまざまな知識をもつ先生でした。そのお顔の広さで、Royal academy of medicine of SpainやRoyal palace GalleriesやAstronomical博物館を友人の専門家に案内をしていただくという贅沢な機会を得ることができました。またレアルマドリッドの本拠地であるBernabeuスタジアムミュージアムもprofの友人に案内をいただきました。あまりの感動で自分と息子に2着公式ゲームシャツを購入してしまいました。(私はベリンガムのシャツです。かなり高価でした。)ちょうどサッカーの試合はありませんで



写真1 Prof. Roccoと著者との2ショット写真



写真2 Ramon y Cajal大学病院でのロボット支援腎移植術1例目のあとで(前列左3人目がProf. Burgos, 右端:植木先生, 右から2人目が著者)



写真3 EAU フレンドシップディナーで TUA メンバーと一緒に（左2番目：植木先生，中央：著者）

したが、スペインでサッカーの次にメジャーなスポーツであるバスケットボールのレアルマドリードの試合を医局の先生方と一緒に計20名で観戦しました。レアルが勝利し、一気に距離が縮まりました。人格者である Prof. Brugos の温かい雰囲気での環境で3日間見学をさせていただいたことは、ローマでの経験とも違う貴重なものになりました。

その後いよいよ EAU2025 が始まり、圧倒的な迫力に驚きながら熱量の高いディスカッションや最新の臨床試験結果などを中心に勉強しました。聞いたところによると70名近い JUA メンバーが参加されたと伺いました。JUA の先生方の堂々とした発表に刺激を受けました。またそれまで1週間以上植木先生以外の日本人とのコミュニケーションがなかったため、久々の JUA メンバーとの再会にとっても安堵したことを覚えております。3日目の夜にはフレンドシップディナーにご招待いただき、世界で活躍されている大御所の前で表彰いただき立派な盾をもらいました。あの感動は忘れられません。初めてタキシードを着て参加した最高の宴でした。人生のピークにならないように今後精進いたします。（写真3）

本執筆をしている現在、当院では大幅な赤字収益もあり残業代縮小という病院からの命題を中間管理職である私になげられております。給与削減でありかなり反発を呼ぶことだと推測しています。今回見学した EAU での大学病院（特に手術室）の外観は決して立派ではございませんでした。先進的なデバイスを駆使して、知識と技術で手術を行うことで質の高い医療を提供していました。本邦では地震などの点で難しいこともあります。設備に多くの投資をして病院で働く職員の給料を減らす方向はいかがなものかと思ってしまいました。古い手術室はどこか味があり、それはそれで外科医にとって趣深いです。

最後に、私は泌尿器科医になり今まで2週間手術室に一步も入らないことがありませんでした。私の誇りでもありました。海外で家族と離れまとまった期間を一人で過ごし改めていろいろなことに感謝をしました。ここで書くことではないかもしれませんが、私を支えてくれている妻をはじめ家族の偉大さを実感しました。結婚して20年一切の家事をしない生活をしていたことを心苦しく感じます。下着や靴下を睡眠時間を削ってホテルで手洗いした経験は忘れることはありません。ふだん、いかに幸せな生活をしているかを実感しました。

そして、本プログラムに多大なご尽力をいただいた JUA 理事長の江藤正俊先生、国際委員長の富田善彦先生、JUA 事務局の田中様、教室を退官直前であるタイミングにもかかわらず本プログラムにご推薦をいただき、快く送り出していただいた市川智彦教授、2週間のあいだ大学病院の手術・外来・入院を支えてくれた仲間たちに改めて御礼を申し上げます。年度末で異動のある先生も多くいるなかで本当に感謝しています。また植木先生に大変助けてもらいました。今後も末永く切磋琢磨していきたいです。本プログラムで得た経験、感覚、感謝を今後いかに還元していくかをこれから考えていきます。このたびは大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございます。